

## はじめに

人間形成の基礎が培われる幼児期は、生活や遊びといった直接的・具体的な体験を通して心情、意欲、態度を育み、基本的な生活習慣を身に付ける重要な時期です。

近年は、少子化が急速に進行し、核家族化や女性の社会進出が一般的になる等、個人の価値観やライフスタイルが多様化する一方で、人間関係や地域とのつながりの希薄化等、子どもや親を取り巻く社会環境は大きく変化しています。

このような環境の変化により、親の子育てに対する孤立感や負担感の増加、家庭や地域における教育力の低下等が指摘されています。子どもの育ちにおいても、規範意識の醸成、自制心や耐性を育む機会の充実、コミュニケーション能力の育成等、幼児教育における課題が指摘されています。また、特別支援教育では、発達障害等の障害は早期発見・早期支援が重要であるとされています。

本市においては、公立幼稚園について、これまでも様々な視点から見直しを図ってきましたが、平成 26 年 2 月に策定した「北九州市行財政改革大綱」において、「民間にできることは民間に委ねる」との考え方に基づき、公立幼稚園の見直しを図ることとしています。

本方針は、このような幼稚園を取り巻く環境変化による課題や、北九州市行財政改革推進本部での議論を踏まえ、本市幼児教育水準の維持・向上のために、公立幼稚園の果たすべき役割と今後の方向性を取りまとめたものです。

今後は、この方針に基づき、本市幼児教育水準の維持・向上に取り組んでまいります。

平成 27 年 4 月  
北九州市教育委員会